

函館市で「北ガス」をご利用いただいているお客さま

約86,000件

※北ガスとご契約のお客さま件数（2023年5月現在）

地域の未来、エネルギーの未来

北ガスは、これからもお客さまとともに
地域を支える新たなエネルギー社会を創り上げていきます

分散型電源の普及拡大と
徹底した省エネの推進

戸建から、地域単位までの
エネルギーマネジメント

函館市と連携した
カーボンニュートラルへの挑戦



北海道ガス株式会社函館支店

函館市万代町8番1号 TEL:0138-86-7101 平日/9:00~17:00
<https://www.hokkaido-gas.co.jp/>

北のくらし、もっとできること
KITAGAS



CLIP

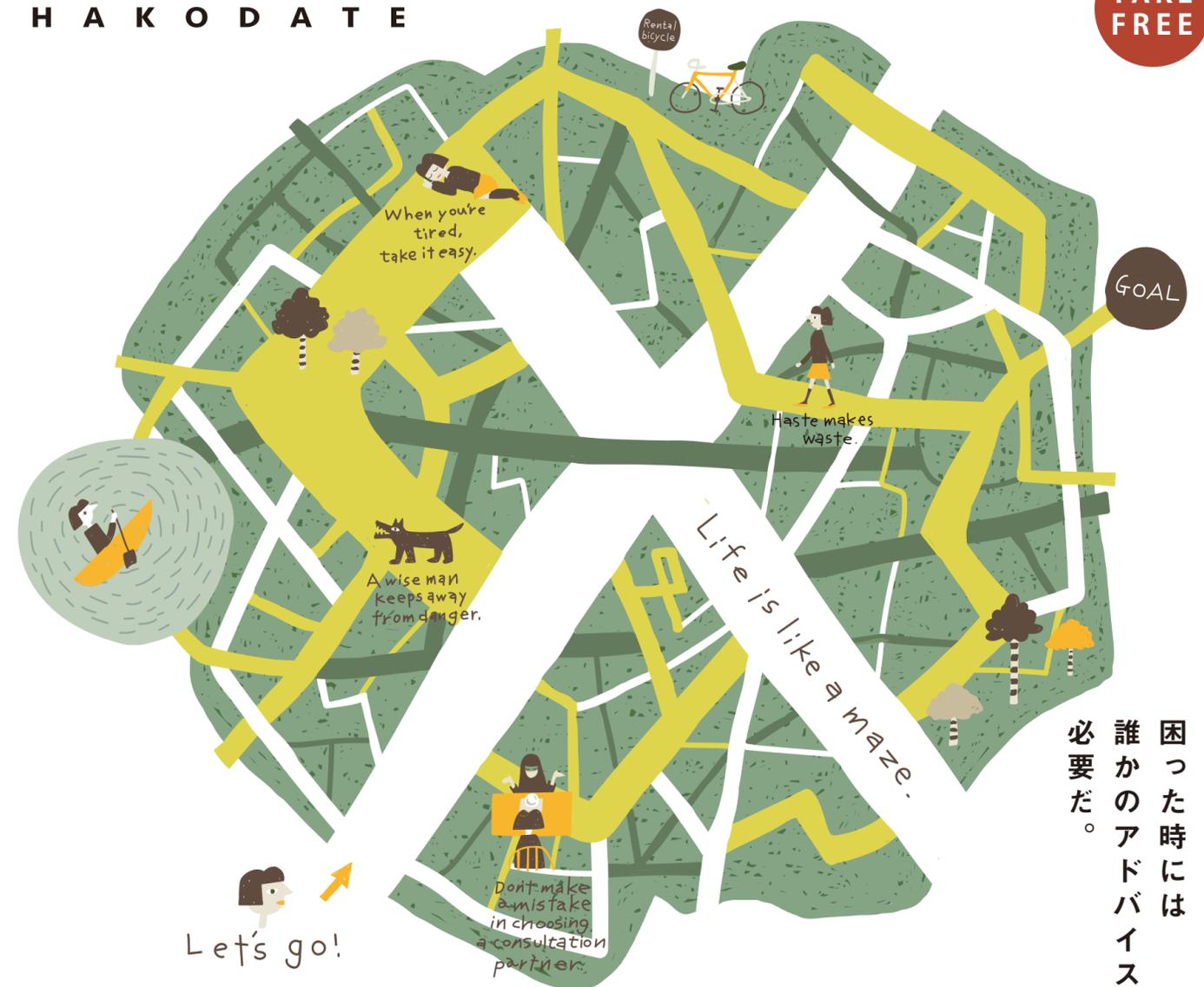
HAKODATE

【クリップ函館】vol.5

2023 9-10

bimonthly

TAKE FREE



困った時には
誰かのアドバイスが
必要だ。



J R 函館駅から徒歩8分。
函館の魅力を満喫できる最高のロケーション

函館国際ホテル

HAKODATE KOKUSAI HOTEL

●宿泊のご予約
0138-23-0591

●ブライダルのお問合せ
0138-23-6161

〒040-0064 北海道函館市大手町5-10 <https://www.hakodate-kokusai.jp>



※函館国際ホテルは、トリップアドバイザーの「旅好きが高ぶる！日本人に人気の町旅の美味しいホテル」にて、常に上位に選出されています。

PERSONALS



函館出身、函館市女性センター館長。『ぼん』学生生活文化祭代表としても「スペイン工務」函館ありとたいの」を主宰し、工芸作家としても活動中。音楽、特にジャズ、歌謡曲が好き。
女性センターホームページ
<https://www.hakodate-josen.com/>

原 田菜摘(はらだ・なつみ)
「館長」という重責に向き合いながら、
新たな挑戦を続ける日々。

原 田菜摘さんが函館市女性センターの館長に就いたのは2021年10月のこと。母親の恵理子さんが代表を務める「にっぽん生活文化楽会」が、函館市からの委託を受け函館市女性センターの運営をし、館長も母・恵理子さんが務めていたのだが、恵理子さんが病に倒れ、亡くなったことを受けての突然の就任だった。「当時は、毎日がてんこまいで記憶がないくらいの状態でした」という。母親を亡くし、気持ちも落ち着かない中、女性センターのスタッフたちから、「あなたに責任者として引き継いでほしい」と言われた。不安も大きく、かなり悩んだが、「この状況では引き受けられない」と覚悟を決めた。「仕事の引継ぎもほとんどなかった中で、スタッフはもちろん、以前から仕事をお願いしている社会保険労務士の方など、周囲が懸命に協力してくれました。その後、学生だった妹も戻ってきて手伝ってくれたんです。本当におおぜいの人たちに助けられて、なんとかやってこれました」と振り返る。本来は、鮮やかな色とデザイン性に富んだ

「スペインタイル」に魅せられて、作品作りに取り組んでいた菜摘さん。恵理子さんの誘いで、「ちょっと時間あるなら、女性センターの受付を手伝って欲しい」と言われたのが、新型コロナウイルスが流行り始めた2020年2月。その頃は、館長の恵理子さんは元気だったが、翌年の2月くらいから体調を崩したため、受付だけではなく、講座の企画や事務全般していると関わようになっていったという。女性センターが行っている仕事の内容は、電話相談業務を中心に、就労支援、女性の自立支援など多岐に渡る。電話相談の内容には、家庭内のいろいろな問題が寄せられる。「たとえば、相談者がDV被害を受けている場合など、加害者が迫ってくることも考えられるので、原則的に面談ではなく電話で受け付け、状況によっては警察や包括支援センターなどの関係機関と連携しながら対応します。さみしいから話を聞いて欲しいという高齢女性からの相談も多い。菜摘さんが館長に就任して2年。少しずつこの重責にも慣れ、これからの方向性を考える

余裕も生まれた。今、女性センターの活動に新しいものをどんどん取り入れてゆきたいと考えている。そのひとつが「函女プロジェクト」という取り組みだ。これは函館市及び近郊に居住し、美術や音楽、手工芸、美容など、さまざまなジャンルで活躍する女性たちに「登録バンク」に登録してもらい、その活動をHP上で紹介し、新たな活躍の場を広げる一助になればというもの。登録者数も少しずつ増え、その中から、女性センターが行っている講座で、講師をお願いするケースも出てきた。「女性センター」という名称ではありませんが、今後は女性以外の方にも利用してもらえるように働きかけたいし、センターを身近に感じてもらいたいです」と開かれたセンターを目指し菜摘さん。講座も、今までのものだけではなく、もっと男性も利用できるようなものを取り入れようと考えている。「毎回、講座を楽しみにしてくれている方々には、いい居場所として利用してもらい、新たに若い世代も参加してもらえよう、いろいろな企画をしようと思っています」。

I need someone's advice when I'm in trouble.

必要だ。誰かのアドバイスが困った時には、

経済的な問題や人間関係、自分や家族の健康、夫婦間のトラブル、育児に進学、就職、恋愛、そして親の介護…。事の大小はあるにせよ、私たちは誰だって何某かの悩みを抱え日々暮らしている。「私は悩みなんて何一つない」なんて人がいたらお目にかかるものだ。悩みはあって当たり前。「悩みがあるということは生きている証だ」みたいなことを、どこかの哲学者も言っていた。

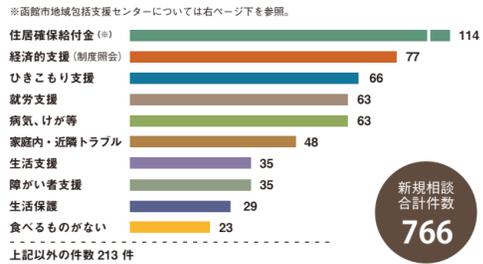
さて、あなたが何かに悩んでいる時、どうやって解決しようとするだろう。「とことん自分で考え抜いて、なんとかする」という人もいれば、「誰かに相談に乗ってもらおう」という人もいよう。後者の場合、その悩みの内容に応じて、相談相手が家族や友人の場合もあれば、学校や職場の先輩だったりもするだろう。そうやって周囲の誰かを捕まえて、アドバイスをもらったり、愚痴をこぼしたり…。仮にそれで答えが見つからなくても、誰かに悩みを聞いてもらうことでストレスの発散になって気持ちも落ち着き、なんとなくその問題に対処できたり、時には諦めることもあるだろう。ただ、悩みの内容が深刻であればあるほど、相談相手も限られ、一人で思い悩むことも多くなる。「ダンナが食事の好き嫌いが多くて面倒臭い」と友人に愚痴はこぼせても、「夫の暴力に困っている」なんてなかなか他人には言えない。中には親類や友人がいなくて頼れる相手がいないという人もいよう。それなのに問題が大きすぎておおよそ一人で解決できるものではなく、さまざまな関係機関の支援や専門知識が必要なケースも数多くある。

世の中には、困難を抱える人を支援するための相談窓口というものが驚くほど多数存在し、そこでは専門の資格を持ったスタッフが対応している場合も多い。行政や、そこから委



託された団体だったり、民間が運営するものもある。知人だと躊躇するが、逆に他人だと話せるということだってある。友人に「誰にも言わないで」と前置きしても、たいていの場合その約束は守られないというのが世の常だ。それを考えるところのような相談窓口の場合、秘密が守られることも安心だ。今、自分ではどうにもならない困難を抱えている人は一度相談してみてもどうだろう。一人で悶々と過ごす時間はいらない。一歩前に踏み出すためのきっかけになるかもしれない。

2022年度地域包括支援センター(自立相談支援機関)に寄せられた新規相談の内容と件数(上位10位)



始まりは2人の子どもの不登校から。

野村俊幸 / 登校拒否と教育を考える函館アカシア会・道南ひきこもり家族交流会あさがお事務局

『函館アカシア会』という団体がある。これは、「不登校」という状況にある子どもの親達が悩みを語り合い、意見交換や情報交換ができる場として、1993年にスタートした。この会の発足後、活動の中心的役割を担って来たのが野村俊幸さんだ。きっかけは自身の2人のお子さんの不登校だ。「初めは長女の登校拒否でした。当初はなんとか学校へ行かせよう」と時には強い口調で説得もし、学校側とも話し合いました。でもなかなかいい方向には進まず、かなり頭を痛めましたね。でも、そんな状況の中で、辛いのは親ばかりではなく当人がいちばん辛いのだと考えるようになりました。その後、次女も学校へ行きたくないと言い出しました。長女の時の経験も踏まえ、彼女には学校に行くよう無理強いすることはしませんでした。でも、それが結果的に良い方向に向かった。この経験がその後の私の活動のきっかけとなりました」

結局、2人は「学校へ通う」という選択肢は捨て、通信制の高校を経て就職。現在それぞれに家庭を持った。「ウチは不登校率が高くてね。6人の孫のうち5人も不登校の子どもがいるんですよ(苦笑)。現在、次女は「ホームスクール(※)」というかたちで、子どもたちを育てています」。

野村さんの活動は「アカシア会」に留まらず、大きく広がっていき。ひきこもりに悩む当事者やその家族を対象にした「道南ひきこもり家族交流会あさがお」を発足させる。これは、なんらかの事情で社会との関わりから身を引いている状態の人やその家族が体験を語

り合い、情報交換ができる場だ。「学校に通い、卒業したら仕事に就く。そんな当たり前だと思われていたこと以外に、実は自分にあっというんな選択肢があるんだと気づいて欲しい。私が娘たちのことで思い悩んでいた頃は、相談できる相手がありませんでした。学校側がその役割を十分に担ってくれるわけではなかった。同じような悩みを抱える人たちの「横の連携」の必要性を強く感じたんですよ。現在問題を抱えている方、困っている方がいらしたら、ぜひ自分たちだけじゃなく、相談して欲しい」と語る野村さん。73歳という年齢になり体力の衰えも感じると語るが、函館市はもちろん、道南各地で、不登校やひきこもり、発達障害関連の自助会や相談会など、ここには書ききれないほどの活動に精力的に関わり続けている。

函館アカシア会
090-6261-6984 (事務局 / 野村)
tnomura@sea.ncv.ne.jp

道南ひきこもり家族交流会 あさがお
090-6261-6984 (事務局 / 野村)
tnomura@sea.ncv.ne.jp http://asagao.starfree.jp

※野村さんの次女・結さんの「ホームスクール」についてのYouTube動画。
https://youtu.be/eHBXMETC384

PROFILE
北斗市(旧上磯町)生まれ。北海道大学卒業後、北海道庁に勤務。主に福祉・教育関連の仕事に従事し、2008年退職。その後も福祉関係の専門学校や大学などで講師を務めるほか、民生委員や函館市社会福祉協議会の評議員など、その活動は幅広い。社会福祉士、精神保健福祉士の資格も持つ。著書に「カナリアたちの奮闘—不登校、ひきこもり、いじめ、体罰—」など。よう対話したらよい。(文芸春秋)等。



相談者さんの前向きさを応援したい。

志村まり子 / 母子家庭等就業・自立支援センター・就業相談員 母子自立支援プログラム策定員

母子家庭等の社会的な自立を目的に、福祉・求人情報の提供や、その他生活全般にわたる相談業務を行っているのが、「母子家庭等就業・自立支援センター」函館市民生事業協会無料職業紹介所。これは北海道と函館市からの委託を受けて運営されている事業だ。相談の内容は多岐にわたる。求人情報の提供等、仕事に関するもの。就労準備や離職転職についての講習会も実施している。他に離婚や養育費の問題、保育や面会交流に関するもの、生活支援に関する相談、弁護士による無料法律相談や巡回相談も行っている。これらの事業を考案するところのような相談窓口の場合、各種関係機関との連携が必須でもある。

ここで就業相談員・母子自立支援プログラム策定員として相談者のさまざまな問題に向き合い続けてきたのが志村まり子さんだ。他に、施設長の片山貴文さん、就業促進員の藤原聡美さんの3名が常駐している。「函館はひとり親家庭、特に母子家庭の数がとても多い。こちらの施設にもたくさんの相談が寄せられます。小さな子どもを抱えたお母さんが仕事をする場合、様々な困難に直面しやすい。働きたくても子どもをどこに預けたらいいのかとか、生活していけるだけの収入を得られるのかとか…。自分や子どもが病気がちだったり、近くに頼れる親がいなかったり、生活保護を受けているお母さんの前向きさを支えたいけれど強く思います」。

志村さんが相談員としての活動をスタートしたのは20年程前のこと。当時はDV(家庭内

暴力)についての相談が多かったと記憶している。2013年、配偶者暴力防止法が改正され被害者の保護が強化されたことにより、その相談件数は減少したという。ただし、それは必ずしも被害件数が減ったということではない。

最近、相談者と接して感じることは、以前と違いネット上にたくさんの情報が溢れている、ある程度の知識を持った相談者が増えたこと。それは確実に良いことではあるが、間違った情報を信用したり、誤った理解をしていたりといったケースもある。問題の内容が複雑であれば、それに応じた多種多様な解決策も求められる。少しでも判断に迷った場合は相談して欲しいと志村さん。「相談者の問題に寄り添い、いっしょに解決策を考える過程が大変なことはたくさんあります。それでも、最初は不安そうに相談に来られた方が、仕事も見つかり、新たな生活を始めた様子を見たり、その仕事に携わって来てよかったと心から思います」。

母子家庭等就業・自立支援センター
函館市民生事業協会無料職業紹介所
0138-24-8040
e-mail:takasago-ji@hnmj.or.jp
http://takasago-ji.hnmj.or.jp



PROFILE
七郎町生まれ。北海道教育大学函館校卒業。小中学校、特殊学校(現在の特別支援学校)を14年担任。その後、子育てを経て、2004年母子家庭等就業・自立支援センター開設後、11月より勤務。現在に至る。



親と子の安心できる居場所を目指して。

佐々木千香子 / 中央認定こども園・園長

現在、市内10カ所で社会福祉法人函館共愛会が運営する認定こども園。その中の一つで新川町にある「中央認定こども園」で園長を務めるのが佐々木千香子さんだ。認定こども園とは教育と保育を一体的に行う、つまり幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設のこと。認定基準を満たす施設に限り、都道府県等から認定を受けることが出来る。入園は0歳児から可能で、現在、中央認定こども園には70名の子ども達が在籍している。そして、園の中には「子育てサロン(地域子育て支援拠点)」が併設されている。子育てサロンとは、函館市が市内13カ所に委託し、運営されているもので、子育て中の親子が気軽に訪れ、時間を過ごすことができる場所だ。子ども同士が遊んだり、子育て中の親同士が育児について情報交換ができる。そして指導員に、子育てに関する悩みごと、心配ごとなどを相談することもできる。「お子さんが第一子の場合だと、お母さんは子育てについて何もかもが初めての体験です。離乳食のことやオムツをやめるタイミング、アレルギーについても、そして発育・発達に問題はないかなど、戸惑うこともたくさんあります。例えばご主人の転勤で函館に来られ、近くに親御さんやお友だちがいなかったりすると、なおさらです。だから、そんな方も気軽に来園して欲しいですね。同じような不安を抱えるお母さんと交流することで気持ちが楽になりますし、私たちスタッフと相談していただければ、アドバイスもできます」

子育てサロンは、0歳から就学前までの親

子や妊婦さんなど子どもに関わる方が気軽に集えるところ。料金はかからない。育児疲れでストレスが溜まっている親にとっては、安心できる居場所にもなっている。「子どもを見ながら、育児で困っていることなどを話し合い、情報交換をしている中で親子ともに友だちの輪が広がります。お母さんだけではなく、小さなお子さんを連れてお父さんやおじいちゃんおばあちゃんも利用されることもありますよ」。

中央認定こども園子育てサロン
0138-23-5617
サロン開放時間 / 月～金曜 9:30-12:30・13:30-15:00
子育て相談 / 月～金曜 9:00-17:00 土曜 9:00-14:30
※土・日・祝日も、こども園の行事が行われる日は休園。

●市内にあるその他の子育てサロン
亀田港子育てサロン 0138-45-1380
美原子育てサロン 0138-62-2020
石川子育てサロン 0138-47-6586
瀬田さくら認定こども園子育てサロン 0138-55-6647
深堀子育てサロン 0138-51-0077
赤川認定こども園子育てサロン 0138-47-6767
大谷港子育てサロン 0138-83-5377
花園子育てサロン 0138-51-7321
つつし子育てサロン 0138-85-3555
南かやべ認定こども園子育てサロン 0138-25-6677
大森浜子育てサロン 0138-22-3155
函館短期大学ついで広場 0138-57-1800
※函館市では、子育てサロンの合同イベントや子育てサロンのない地域での出張サロン等も実施している。

PROFILE
函館市生まれ。函館市内の短期大学にて保育士と幼稚園教諭の資格を取得。卒業後、社会福祉法人函館共愛会に勤務。2016年より園長に就き現在に至る。3年前より現職。趣味は音楽鑑賞とピアノ。



函館の相談窓口いろいろ



【暮らし全般】

●くらし安心110番
市民生活に関わる相談全般。月～金曜 8:45-17:30
函館市市民部くらし安心課 0138-21-3110

●一般相談
いじめや体罰、虐待などの相談窓口です。最寄りの法務局につながり、法務局職員又は人権擁護委員が相談をお受けします。月～金曜 8:30-17:15
0120-007-110

【心の相談】

●心の健康相談
心の悩み、心配事に関する相談。北海道メンタル評議会の心理声聴士、傾聴アソシエが対応。第1水曜 10:00-12:00 (来所または電話)
函館市社会福祉総合相談センター 0138-23-8969

●心の健康相談
医師、保健師、精神保健福祉士が問題解決のための相談に応じます。
保健師・精神保健福祉士による相談…月～金曜 8:45-17:30 (電話または来所)
医師による相談…月1回予約制
函館市障がい保健福祉課相談支援 精神保健担当 0138-21-3077

【事件・事故】

●函館方面本部警察相談センター
市民生活の安全に関する相談。月～金曜 8:45-17:30
道庁ダイヤル#9110

【お金】

●借金問題専用相談窓口
函館市の借金問題専用相談ダイヤルです。月～金曜 8:45-17:30
函館市市民部くらし安心課 0138-21-3160

【性・女性】

●セクシャルマイノリティ相談
当事者や家族、関係者などからの相談に応じています。面談は予約制。水曜 13:00-17:00
函館市女性センター 0138-23-4188

●DV・虐待・離婚相談 / 働く女性の悩み相談
DV や離婚、ハラスメント、雇用・待遇の問題などの相談に応じます。面談は予約制。
火・木曜 10:00-15:00 / 水・金曜 18:30-20:30
函館市女性センター 0138-84-8742 (相談員直通)

●家庭生活相談
函館家庭生活カウンセラークラブ会員が相談に応じます。面談は予約制。
月・金曜 10:00-12:00 / 13:00-15:00、
火・木曜 18:30-20:30、水曜 10:00-12:00
函館市女性センター 0138-84-8742 (相談員直通)

●生活就労サポートセンターおしま
暮らしや仕事の相談窓口。函館市・北斗市を除く渡島管内 9 町が対象地域。渡島総合振興局からの委託運営。月～金曜 9:00-17:00
0138-22-0220 / oshima@hif.or.jp

●生活就労サポートセンターひやま
お金の仕事など、生活全般の相談窓口。榊山振興局からの委託運営。榊山7町対象。月～金曜 9:00-17:00
0139-54-6300 / hiyama@hif.or.jp

●生活困窮世帯等の子どもの学習・生活支援事業
渡島総合振興局、榊山振興局の委託を受け、生活困窮世帯等の子どもたちへ学習支援を行います。詳細は、上記の生活就労サポートセンターおしま、またはひやまへお問合せください。

【ひとり親・子ども】

●ひとり親家庭サポート・ステーション
ひとり親家庭の方が抱えている様々な悩みごとの相談に応じます。月～金曜 8:45-17:30
市役所2階子育て支援課内 0138-21-3193
亀田支所 亀田福祉課内 0138-86-7100

【地域包括支援センターについて】

生活困窮、ひきこもり、就労など、困りごと全般を無料で相談できる「福祉拠点」。函館市は2022年度より高齢者の相談窓口であった地域包括支援センターに自立相談支援機関を併設。世代を問わない相談窓口へと機能を拡充した。

- 函館市地域包括支援センターあさひ
函館市旭町 4-12 (函館総合在宅ケアセンターあさひ内)
0138-27-8880
- 函館市地域包括支援センターこん中央
函館市松風町 18-14
0138-27-0777
- 函館市地域包括支援センターときとう
函館市時町 35-24 (こくクリニック時町内)
0138-33-0555
- 函館市地域包括支援センターゆのかわ
函館市瀬川町 1-15-19
0138-36-4300
- 函館市地域包括支援センターたかおか
函館市高丘町 3-1
(地域密着型介護老人福祉施設サテライト百薬園内)
0138-57-7740
- 函館市地域包括支援センター西郷
函館市富岡町 3-12-25
0138-78-0123
- 函館市地域包括支援センター亀田
函館市昭和 1-23-8
0138-40-7755
- 函館市地域包括支援センター神山
函館市神山 1-25-9
0138-76-0820

●子どもなんでも相談110番
0才から18才までの子どもに関するあらゆる相談に応じます。月曜 8:45-19:00、火～金曜 8:45-17:30
函館市子ども未来部次世代育成課 0138-32-3192
子ども専用電話 (フリーダイヤル) 0800-800-0679

●子どもの人權110番
いじめや体罰、虐待などの相談窓口です。最寄りの法務局につながり、法務局職員又は人権擁護委員が相談をお受けします。月～金曜 8:30-17:15
0120-007-110

【就労】

●はこだて若者サポートステーション / はこだてサポステ・プラス
働くことに悩みを抱えている15～49歳まで対象に、就労に向けた支援を行います。厚生労働省委託事業、キャリアバンク株式会社運営。
月～金曜 10:00-17:00 (函館市末広町 5-14 アクロス十字街1階)
0138-86-5450 (個別面談は事前予約が必要)

【その他】

●函館市消費生活センター (亀田支所1F)
契約トラブルや商品の安全性など消費生活に関する相談
月～金曜 9:00-16:00
0138-83-7441

●NPO法人はこだて街なかプロジェクト
西部地区7町(船見町、弥生町、弁天町、大町、末広町、豊川町)の空き地・空き家に関する電話相談を実施。
0138-55-1488

●移住サポートセンター (函館市地域交流まちづくりセンター)
函館市への移住に関する相談窓口。
9:00-21:00 ※土日祝日も対応 / 年末年始休
函館市地域交流まちづくりセンター 0138-22-9700

【市民活動】

●市民活動相談
市民活動の運営や助成制度について。来館・電話・オンライン (事前申込制) 対応。
9:00-21:00 ※土日祝日も対応 / 年末年始休
函館市地域交流まちづくりセンター 0138-22-9700

【HIF 北海道国際交流センターの相談窓口】

●ウイメンズサポート函館
函館市より委託し運営する「函館市女性つながりサポート事業」。メールでご連絡いただければ専門のカウンセラーが3日以内にお応えします。
24時間受付 women@hif.or.jp

●函館市外国人生活相談窓口
函館で暮らす外国人のお悩みに対応 (相談無料)。函館市からの委託運営。月～金曜 9:00-17:30
0138-86-6065 / hakodatelife@hif.or.jp

●ヘルプデスク
外国人傷病者等が医療機関を受診する場合にはご利用いただける有料サービス。24時間対応
090-2694-7985

●NGO 相談
国際協力や NGO に関する質問・相談に対し、情報提供やアドバイスを行います。月～金曜 9:00-17:30
0138-22-0770

●グローバルキャリアサポート
留学やワーキングホリデー、海外ボランティアなど、渡航に関する相談に応じます。月～金曜 9:00-17:30
0138-22-0770

●生活就労サポートセンターおしま
暮らしや仕事の相談窓口。函館市・北斗市を除く渡島管内 9 町が対象地域。渡島総合振興局からの委託運営。月～金曜 9:00-17:00
0139-54-6300 / hiyama@hif.or.jp

●生活困窮世帯等の子どもの学習・生活支援事業
渡島総合振興局、榊山振興局の委託を受け、生活困窮世帯等の子どもたちへ学習支援を行います。詳細は、上記の生活就労サポートセンターおしま、またはひやまへお問合せください。

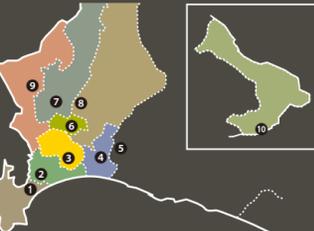
【ひとり親・子ども】

●ひとり親家庭サポート・ステーション
ひとり親家庭の方が抱えている様々な悩みごとの相談に応じます。月～金曜 8:45-17:30
市役所2階子育て支援課内 0138-21-3193
亀田支所 亀田福祉課内 0138-86-7100

【地域包括支援センターについて】

生活困窮、ひきこもり、就労など、困りごと全般を無料で相談できる「福祉拠点」。函館市は2022年度より高齢者の相談窓口であった地域包括支援センターに自立相談支援機関を併設。世代を問わない相談窓口へと機能を拡充した。

- 函館市地域包括支援センターあさひ
函館市旭町 4-12 (函館総合在宅ケアセンターあさひ内)
0138-27-8880
- 函館市地域包括支援センターこん中央
函館市松風町 18-14
0138-27-0777
- 函館市地域包括支援センターときとう
函館市時町 35-24 (こくクリニック時町内)
0138-33-0555
- 函館市地域包括支援センターゆのかわ
函館市瀬川町 1-15-19
0138-36-4300
- 函館市地域包括支援センターたかおか
函館市高丘町 3-1
(地域密着型介護老人福祉施設サテライト百薬園内)
0138-57-7740
- 函館市地域包括支援センター西郷
函館市富岡町 3-12-25
0138-78-0123
- 函館市地域包括支援センター亀田
函館市昭和 1-23-8
0138-40-7755
- 函館市地域包括支援センター神山
函館市神山 1-25-9
0138-76-0820



※お住みの地域の担当センターについては「函館市地域包括支援センター」で検索。

15歳から24歳の女の子を守る。 「わたカフェ」の取り組み



福田 愛

国票NONOプラン・インターナショナル
国内支援事業カールブリーダー

福田さんが所属する、プラン・インターナショナルとは、「女の子が本来持つ力を引き出すことで地域社会に前向きな変化をもたらし、世界が直面している課題の解決に取り組もう」という国際NGOだ。現在、世界75カ国以上で活動、そのグローバルなネットワークと長年の経験に基づく豊富な知見のもと、「弱い立場に置かれがちな女の子が尊重され、自分の人生を主体的に選択することができる世界の実現」に取り組んでいる。

そして今、プランはこれまで日本社会に存在しながらも見過ごされてきたジェンダー不平等に取り組むため、「女の子のための居場所・相談」プロジェクトを開始、それが「わたカフェ」だ。

「わたカフェ」とは、日本国内で生きつらさを抱えている女の子たちを支援する「女の子のための居場所・相談」だ。東京・池袋で15歳から24歳の女の子のためのカフェを運営し、安



世界では5人に1人の女性が18歳未満で結婚している。©UNICEF

心して過ごせる居場所を提供するとともに、有資格者(社会福祉士・精神保健福祉士、臨床心理士、助産師)による専門相談および、食料などの物資の支給を行っている。オンライン・チャット相談も運営し、誰にも相談できず、孤独を抱える女の子一人ひとりに相談員が寄り添い、安心して話せる場を提供している。

HIFが運営するウイメンズサポート函館では、8月から2月まで、毎月1回、函館コミュニティプラザGスクエアにて講演会と個別相談を開催する(右枠参照)。そして9月16日(土)のゲストが福田さんだ。「第3の居場所」をテーマに、居場所がいかに必要かを解説していただき、同時に「わたカフェ」の事業説明と、私たちが地域での取り組みで、何ができるのかについてお話しいただく。

わたカフェHP
<https://www.watacafe.jp/>
女の子のためのチャット相談HP
<https://www.watacafe.jp/chat/>

PROFILE

東京都出身。2012年から、更生保護施設で、少年院や刑務所を仮退院・仮出所した女性の自立支援に携わり、その後、虐待や養育困難な家庭へ介入、家庭の暴力から逃げる若年女性の支援などにかかわる。2020年から、公益財団法人プラン・インターナショナルに入局し、新事業である「女の子の居場所カフェ・わたカフェ」と「女の子のためのチャット相談」を開設し、運営に至っている。社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ。

「わたしは、大なり小なり常に「不安」や「恐れ」を心の中に持っています。例えば、これから先も安心して働き暮らしていくことができるのかという恐れは、誰の心の中にもあるでしょう。男性であれば、職場での出世に関する不安、同期や

後輩に先を越されるのではないだろうか、また、弱みを見せてはいけないという社会的なプレッシャーが重くのしかかっているかもしれない。女性であれば、出産・子育てをしながら仕事を続けることができるだろうか、男女共働婚化が進んだ今の社会の中、結婚しないことを選択しても、1人で生きていくことができるのだろうかといった不安を抱えている人もいらっしゃると思います。子どもであっても、学校でお友達と仲良くできるのかという不安、お年寄りであれば身体を衰えに対する不安、社会との繋がりが希薄であれば孤独感が増している、あるいは不安や怖れを感じることは、とても怖いこと。不安や怖れを感じることは、とても怖いこと。従って私たちが「不安や恐れを感じさせるものから自分を守るために、「有害」と感じさせるものは積極的に排除し、自分を守るようにします。これは、「ディフェンスメカニクス」という無意識の働きで、人間にそもそも備わっている仕組みです。つまり、攻撃は「自分を守るため」と言えるわけですね。ハラスメントをした人は男女問わず、非常に攻撃性の高い言動を繰り返しています。それは誰よりも不安や怖れ、孤独を強く感じている人物ともいえます。つまりハラスメントをする人は、「何かに危機感を感じ、強く怯えている」のです。(次回に続く)



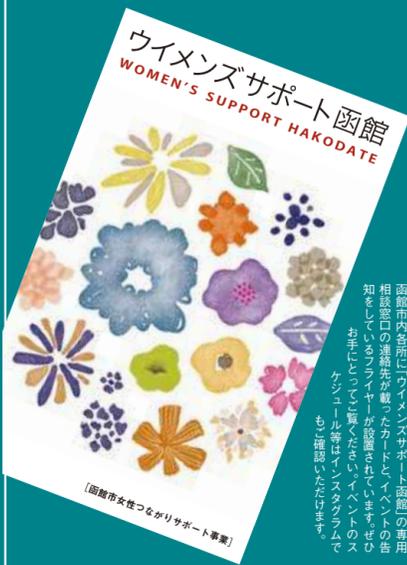
PROFILE

函館生まれ。上智大学グリーンケア研究所認定臨床心理士、産業カウンセラー、防衛省航空自衛隊部外カウンセラー、喪失体験による悲しみや苦しみをケアする「グリーンケア」の普及啓発に積極的に取り組む。著書「嫉妬のお作法」、「女子ボスのトリセツ」(フォレスト出版)。

さまざまな女性の困りごと、お気軽にご相談を。

ウイメンズサポート函館 WOMEN'S SUPPORT HAKODATE

「ウイメンズサポート函館」とは、一般財団法人北海道国際交流センター(HIF)が函館市より受託し運営する「函館市女性つながりサポート事業」の名称です。女性が抱えるさまざまな悩みに対応する相談窓口の開設の他、毎回、女性問題に詳しいゲストを招いての講演会や個別相談、また出張相談会など各種イベントの開催、経済的困難を抱える女性を支援するための生理用品の配布などを行う取り組みです。女性のみならず毎日の生活の中で感じる不安や悩みをご相談ください。メールでご連絡いただければ専門のコウンセラーが対応いたします。混み合っていたりする場合でも3日以内にご返答いたします。内容によっては関係機関と連携し、紹介や引継ぎなどの支援をするほか、ご希望の場所での対面相談も可能です。相談は無料です。



函館市内各所にウイメンズサポート面談の専用相談窓口の連絡先が載ったカード、スマートフォンのお手帳に貼って、電話やメールで相談したいときも確認いただけます。

ひとりで抱え込まず、お気軽にご相談を。

専用メールにて受け付け、時間がかかる場合でも3日以内に返信いたします。
月～土曜日 9:00-17:00
※祝日、年末年始(12月29日～1月3日を除く)
E-mail: women@hif.or.jp



函館市女性センター

が主催する、9・10月の[講座]の中から注目の講座をピックアップ!

●講座名	●日時	●定員	●受講料等	●内容
女性の弁護士による 女性のための法律相談	9/6(水) 14:00-16:00(1人30分)	4名 (女性限定)	無料	法律上の問題を抱える女性を対象に、弁護士が相談を受け、問題の解決にあたります。
居心地の良い家庭を築くための 家族力養成講座	9/8・15・22・29(金) 18:30-20:00(4回連続)	24名	無料	結婚前から新婚時期、幼児の子育て、親の介護など、それぞれの時期に合わせた家族のあり方を考え、学びましょう。
草木の花を訪ねて 函館山山歩(さんぽ)	9/28(木) 10:00-12:30	15名	無料	函館山をガイドといっしょに歩きながら、秋に見られる植物について詳しく学びましょう。
就職のためのパソコン講座 「エクセル」8回コース	10/6・13・20・27(金) 18:30-20:00	5名	無料	5回目以降の開催日は、11/10・17・24、12/1(金)です。講師はIT POCKET 代表・中村隆利氏。要筆記具。
疲れた身体をリフレッシュ! 健康ストレッチ教室①②	①10/23(月) ②30(月) 18:00-19:30	各14名	無料	講師はスポーツインストラクターの杉本あずさ氏。当日は動きやすい服装で。要水分補給用の飲み物、汗拭き用タオル。
からだの中から健康に 薬膳料理教室	10/17(火) 10:00-12:00	12名	材料費 3,000円	講師は中医学薬膳指導員・十二ヶ月のお料理教室主宰の木下あやこ氏。要エプロン、三角巾、食器用布巾、スリッパ。

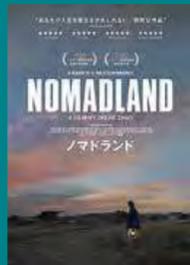
※各講座の申し込み締め切りは、函館市女性センターまで。
※募集対象は函館市民または市内在勤の方です。
※申し込み多数の場合、抽選となります。
※申し込みは、各講座に設定している申し込み受付開始日から、電話・ホームページ、または女性センターの窓口にて受け付けます。
※詳細は講座ごとのチラシ、または「函館市女性センター」ホームページをご覧ください。また、女性センター館内には、約2カ月前より、講座受講者募集のポスターを掲示しております。随時ご覧の上お申し込みください。
※託児可能な講座もあります。申し込み時に問い合わせください。

函館市女性センター

函館市東川町11番12号
TEL.0138-23-4188 FAX.0138-23-4189
開館時間/9:00~21:00
休館日/日・祝日・年末年始(12/29-1/3)
info@hakodate-josen.com
<https://www.hakodate-josen.com>

宇宙のまなざしで人を捉えたエッセイ集

不況による工場閉鎖で街と家を失い、亡き夫との思い出を胸に車上生活を送る高齢の女性、フェーン。映画は、アメリカ西部の雄大な自然を背景に、季節労働で各地を渡り歩く現代のノマド(遊牧民)である彼女の姿を淡々と描き出す。カメラが捉えるのは、荒涼として過酷でありながら清々しく美しい自然の風景であり、そこで生きるノマドたちとフェーンの正直な交流だ。格差社会の歪みを指摘すると同時に、フェーンを選択——孤独と郷愁、自由と誇りについて問われた気がする。



『ノマドランド』
監督/クロエジャコ
主演/フランシスカ・ド・トランド
アメリカ 2020年

宇宙のまなざしで人を捉えたエッセイ集

月がなければ音楽はなかった? 自然人もゆるんでいる? 理論物理学者で天文台台長でもある著者は、全64編のショートエッセイの中で宇宙や自然の科学的な話題から詩や音楽、宗教、哲学までを軽やかに行き来し、世界の不思議や生きる楽しさを伝えてくれる。思索は深いけれど語り口は平易で柔らか。仕事の合間や寝る前に好きなどを拾い読みするのもオススメだ。読んでいくうちに本の副題の意味、過去も未来も今のこの一瞬のうちに含まれているということがわかるだろう。



『この星で生きる理由』
過去を新しく未来はなつかしく
佐治晴夫著
KOC中央出版 2024年

海の向こうの「女」たちの事情。

「中国の場合/前編・結婚と出産」
話し手/マー・リー●中国・山東省出身。40代半ば。28歳で日本人の男性と国際結婚。

中国では女性への結婚のプレッシャーが本当に強いんです。男性にもそれはあるけど、やっぱり女性は出産のこともあり、若く結婚するのが良いと考えられています。適齢期だと考えられているのは23〜25歳ですね。それを過ぎて結婚しない女性のことを、中国では「剩女(シャンヌイ、余った女)」と呼び、とにかく社会からの風当たりが強い。日本のクリスマスケーキ理論と一緒に、私は、28歳で結婚したんですが、25歳を過ぎたあたりから、親から親族同士の集まりには「来るな」と言われたりもして……(笑)。親戚のおばさんが男性を紹介しようとして、「写真を持って来たりすることも普通ではありません。友人は実家の親から「病気だから、顔を見せに来て」と連絡があり、あわてて帰省したらお見合いがセッティングされていた、なんて話もありませんよ。中国では、子どもを結婚させるのは親の使用

命だと考えられているんです。子どもが結婚するまでは親としての仕事が続いている状態。だから一人立ちしていたとしても、親の干渉が続きますね。そして、「結婚したら、次は子ども」という考えも強い。結婚したのに子どもがいなくて「子どもはまだ……」と周囲から急かされます。ちなみに子どもができて、病院は赤ちゃんの性別を産まれるまでは絶対に教えずに隠します。これは一人っ子政策の影響ですね。あと中国では「運命」というものが強く信じられていて、自然分娩可能でも、「縁起の良い日」縁起の良い時間にと、日時を選んで帝王切開する人も少なくない。希望を通すために、必要ならば医者に胎前まで用意してね(苦笑)。それに、産後1カ月はとにかく安静にしろと、シャワーを浴びてはいけない、歯磨きをしてはいけないとまで言われます。地方によって母乳を出すために良いとされている食べ物もあって、私は味のついていない豚足を食べさせられて辛い思いをしました(苦笑)。最近では産後ケアセンターが人気です。昔は母親や姑に面倒を見てもらうことが多かったんですが、やっぱりみんな疲れるんですよ。※本記事は、日本在住の外国人女性・母国女性を抱えている悩みや困難について記事をお話したいという希望をもち、ライターが直接中国女性の仕事事情についてお伝えしています。



PROFILE

函館市生まれ。北大医学部卒。麻酔科を経験したのち産婦人科に転科。幸せな女性が増えれば世界はもっと平和になるをモットーに、市内の病院にて、日々真摯に診療に取り組む。2024年春、自身のクリニックを開業予定。

日本人が気づかない
日本のサブカルチャーの魅力を
外国人に教わるとい
うことも複雑な話。

夏井俊介 / 夏井珈琲・店主

PROFILE

群馬県生まれ函館育ち。趣味が高じて本のコレクターやアーティストたちの相談役として、日々新しい情報を発信している。

とある雑誌の中でみつけた1頁です。ボラ社から刊行されていた南洋一郎の冒険シリーズが棚に取まっていることから、おそらく1955〜59年頃の貸本屋での光景だと思われまふ。少年は本に埋もれながら集中して漫画を読んでいるようです。この写真からは、戦後からおおよそ10年余ほど経過し、まだ貧しく娯楽も少ない日本の中で、子どもが想像力を漲らせ空想の冒険世界へと誘われている、賢沢で素敵なシーンを静かに読み取ることが出来ます。

今ではこのような光景をみることは少なくなつた…ノスタルジーからそういつてみると、今でもワンピースなどの冒険マンガをみている子どもたち(大人も)は、本質的にこの写真の少年と同じ気持ちで1冊の本に魅了されているのでし

うね。しかし、書店でこのような光景をみるのがなくなったのは事実です。そこは時代の流れであり、書店の在り方も変化していかざるを得ない状況です。数年前に訪れた台北の書店では、まだこのような光景をみることが出来ました。日本よりも洗練されたお洒落な大型書店では、老若男女を問わず、さまざまな人たちが一心不乱に本を読み、フロア全体は静けさと共に異様な熱気が立ち込めていました。わたしもその熱気が当たり、ムクムクといつとも一層好奇心をかき立てられたという強い印象が残っています。

この1枚の写真を通して、そのことがより貴重な体験であったことを思い返すことができました。



アハメド・サリム
マイホームタウン / 私の故郷

エジプトの首都であり、アラブ文化圏で最も人口が多い都市カイロ。ピラミッドやスフィンクスを見ようと、世界中から大勢の観光客が訪れる活気ある街だ。人口の9割がイスラム教徒であり、現地女性の多くは頭髪を覆うヒジャブを身に着けている。アハメドさんに、現地の人たちはピラミッドを見に行くのか尋ねると「子どものうちは

勉強として見に行っただけね。大人になってからはお客さんが来たときだけです」と笑いながら教えてくれた。「地元の人ほど観光地に行かない」というのは世界共通のようだ。カイロに暮らす人々にとつては、ピラミッドよりも地中海や紅海などの海辺リゾートが人気だという。ただし、そこでマリンスポーツなどのレジャーを楽しむのは少数派。エジプト人は家族の絆を大事にするため、余暇は皆で集まり、歓談するのが一番魅力的な過ごし方だと考える人が多いそうだ。

だ、こうした価値観にも少しずつ変化がみられる。アハメドさんが子供の頃、休日は祖父母宅に親族が集まって過ごすのが当たり前だった。しかし、現在は電話やWebでのやり取りで済ませることが増え、近年はコロナ禍もあり、家族が集う機会は減少しているという。大都市であるカイロは、テクノロジーの恩恵を受けやすく、外国人との交流も多い。「時代の移り変わり」を意識しやすしい街なのかもしれない。

アハメド・サリム
PROFILE
2018年初来函。家庭の事情や自身の学業のため、イギリス、サウジアラビア、中国で暮らした経験を持つ。ここでは未来大学博士課程在籍。

函館の「アートの時間」
TIME FOR ART

大下智一 / 北海道立函館美術館・学芸員

今 年6月、函館在住の2人の美術家がロサンゼルスでの日本人アーティストのグループ展に参加しました。1人は私が勤める北海道立函館美術館でも出品してもらったことがある、ささきようすけさん。もう一人が、今回紹介する佐々木一斗さんです。

佐々木一斗さんは1990年、函館生まれ。東京で文化服装学院、セツモードセミナーに学んだ後、故郷函館に戻ります。2021年、函館で開催した個展をきっかけに、本格的に美術家として作品を発表しはじめます。その後、函館コミュニティプラザ Gスクエアなどを中心に活動を続けています。

作品の多くは「服」。ロールキャンバスに彩色、描画し、紙俵を使って縫製し服にします。描くことへのこだわりと、学んできたファッションとが一つとなった、佐々木さんらしい作品といえるでしょう。ボタンやアクセサリーは、ペットボトルのキャップや絵の具のチューブを潰したものなど、廃材をつかった、いわば「レディ・メイド」。最近作では、お菓子の空き箱を素材とした、すべてが「レディ・メイド」なベストを制作しています。佐々木さんはそうした理由として、高級な素材をあえて避けることによって、恵まれた人だけがファッションの楽しみを享受すべきではないという、美術家としてのメッセージが込められているといいます。一方、ロサンゼルスでの作品、在廊を通じて、作品が売れたこと、そして当地ではアートがより生活の身近にあることを感じた佐々木さんは、美術家として身を立てていきたい、という気持ちを強く持ったといえます。そうした思いが、ここ函館に新たな「アートの時間」を生み出す力になることを期待せずにはいられません。

佐々木さんの次の作品発表予定は、Gスクエアでの展覧会「みんなでつくろう。アートの森」(9/17〜24)。ロサンゼルスと一緒に出品したささきようすけさんが企画した展示会です。こちらにも楽しみにしています。

新・バカの大足
ちよんどの足
俺の足



中村ひでのり

の原稿を書いている8月某日。TVをつけると「連日猛暑日が続いております。くれぐれも体調には…」と判を押したようにこのセリフが聞こえてくる。確かに暑い。今日は函館でも30℃を超えた。この CLIP vol.5 が発行される頃には涼しくなっているはずだから、これを読んでいる方は今更かと思われるかもしれないが、今は暑いのだろうか。ただ犬もぐったりしている様子。この散歩って意味があるのだろうか疑問に思った。「おじいちゃん、犬のためにもあなたのためにも、こんな日は家の中でじっとしていた方がいいよ」と声をかけたかったが、余計なお世話なので静かに見送った。

猛暑・酷暑・極暑・激暑・厳暑・

「自然生態系とのバランスをはかる」となる。平面的な「大沼の自然を利用しつつ負荷を与

「みんなで作ろう。アートの森」
函館を拠点にアーティスト活動するささきようすけさんが企画するアート展がGスクエアで開催される。ささきさん自身を含む複数のアーティストが参加。同時に「アートの森」をテーマに、みんなで作品作りをしようというワークショップも同時開催。



「自然生態系とのバランスをはかる」となる。平面的な「大沼の自然を利用しつつ負荷を与

PROFILE

函館市生まれ。幾度かの転居を経て、現在北海道立函館美術館に7年ぶり3回目、都会21日目の勤務。

エジプト・カイロ
Ahmed Salem



子どもも大人も楽しめる絵本。

『ムーニャとほしのたね』

旭川から50kmほど北上したところにある剣淵町。この町で「絵本で町おこし」と「けんぶち絵本の里を創ろう会」が発足したのは1988年のこと。3年後の1991年3月には旧町役場を改修し、「絵本の館(旧)」がオープンすることとなった。同年「けんぶち絵本の里大賞」もスタート。その後活動は大きな広がりを見せ、2004年には現在の「絵本の館」も新築され、やがて剣淵町が絵本の里として認知されることになった。「ムーニャとほしのたね」は、札幌在住のイラストレーター・佐藤正人さんによる「けんぶち絵本の里大賞」の2001年の受賞作である。剣淵町の四季折々の美しい自然、実り豊かな大

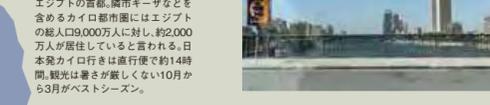


地を舞台に、うさぎのムーニャが登場する物語だ。ページをめくるとそこに引き込まれていくその色彩の美しさは20数年経った今でも色褪せない。作品を通して、町と作者との交流も深まり、ムーニャは町のキャラクターとして飲食店の名前となったり、スクールバスや郵便ポストなどにも描かれ、町民に親しまれ続けている。30数年前、剣淵町を絵本の町にと願った人たちの夢の結実を象徴する作品でもある。

PROFILE

東京都生まれ。高校卒業後、ニュージーランドへ渡り、リンカン大学にて国立公園管理学、クライストチャーチ教育大学にて中等教育教職課程を修了。帰国後、NPO法人、大学・研究機関等に環境教育、生態学研究に携わる。2023年5月からHIFスタッフ。

編集部が街で見つけたちょっといいモノ。
道南の植物にこだわりの古着や小物などを染色。



TIE DYE COTTON CREW SOCKS

植物染めタイダイシリーズ
イエロー(レディース)
¥2,800(税込)
赤(キッズ)
¥1,800(税込)
※イエローはザクロ、赤は茜で染色。ユニセック・スレディーズ・キッズサイズがある。

函館に暮らす外国人に聞いた「故郷の味」。「カルデレータ」

ドナ / フィリピン・ミンナダオ島ダバオ

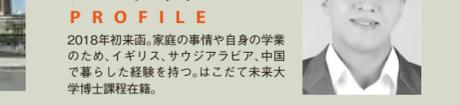
Wonder

フィリピン料理といえば「アドボ」が知られているが、この「カルデレータ」もこの国を代表する家庭料理の一つ。フィリピン料理はスペインの植民地時代の影響が色濃く残っていて、この「カルデレータ」もスペイン語でシチューを意味する「caldereta」がそのまま残った。「誕生日など、人が集まる特別な日によく食べられています」とドナさん。フィリピンでは料理の味付けに醤油がよく使われ、主食も米ということから日本人には馴染みやすい味。この料理もじゃがいもやにんじん、玉ねぎ、にんにく、唐辛子…と、これまた馴染みのある食材だ。ただ、主役の肉であるが、本場ではヤギ肉が使われることが多い。牛肉や豚肉でも代用でき、それでも十分美味しいのだが、ドナさんはやはりヤギ肉が恋しいようだ。そしてレバーペーストのココクが、この料理の味の決め手なのだと言う。

PROFILE

谷川真弓子

散歩・散策から思い巡らす過去、現在、そして未来。



第5話 大沼に何人住めるだろうか? / 後編

号に書いたソロキャンプの10年後、私は再び東大沼キャンプ場に立った。その時はキャンプが目的ではなく、大沼のラムサール条約登録関連行事に裏スタツフ(?)として、地元元気でこのキャンプ場の案内に同行していた。このキャンプ場は大沼から唯一流れ出る折戸川の「源流部」そばで、そこでは湖に流れ入る川と流れる川そしてそれぞれが何を運ぶか、という話がされた。水は流れる際に土砂、枯葉や水生生物などの自然物を運ぶ。水の流れの周りで人間生活が営まれていけば、そこから排出されるものも運ぶし、同時に人間がその流れを利用することもある。その時は、流入する水の水質と湖の生態系への影響、そしてそれが流出する過程が議論の課題となった。

よく言われる「自然生態系とのバランスをはかる」となる。平面的な「大沼の自然を利用しつつ負荷を与

「みんなで作ろう。アートの森」
函館を拠点にアーティスト活動するささきようすけさんが企画するアート展がGスクエアで開催される。ささきさん自身を含む複数のアーティストが参加。同時に「アートの森」をテーマに、みんなで作品作りをしようというワークショップも同時開催。

PROFILE

谷川真弓子



函館映画鑑賞協会 第264回例会のお知らせ

1980年の発足以来、国内外のドキュメンタリー、インディーズ作品など、既存の映画館、特に函館ではなかなか観ることのできない名作を発掘し、定期的上映し続けている「函館映画鑑賞協会」。9月の例会で上映されるのが、「杜人(もりびと) 環境再生医 矢野智徳の挑戦」だ。時に「地球のお医者さん」とも呼ばれ、全国を飛び回って傷んだ植物の治療にあたる造園家・環境再生医、矢野智徳氏に、監督前田つとむ氏が3年余り密着し、その活動を追ったドキュメンタリー。上映当日は前田氏のトークライブも行われる。



前田氏初の長編作品であるこの映画制作監督撮影に集めてすべて前田氏の手による撮影時間は500時間超に及ぶ。

【日時】9/16(土)
上映時間 / ①10:30-12:11 ②13:30-15:11
③18:30-20:11
トークライブ / ①12:25-12:55 ②15:25-15:55
③18:00-18:30

【場所】函館市民会館・小ホールA
函館市湯川町1-32-1
【料金】前売り / 一般 1,300円 学生 500円
当日 / 一般 1,500円 学生 500円
※中学生以下無料。函館映画鑑賞協会会員の方は会費のみで鑑賞可。
※チケット販売 / 函館市民会館 シネマアイリス カフェ・ドリップ・ドロップ
【問合せ】0138-52-0193(函館映画鑑賞協会)

JTS 函館日本語教育研究会 日本語スピーチコンテスト

あつまれ、地球人！
きいて、はなして、つながろう



1989年に設立されたJTS函館日本語教育研究会。その主な活動は、「函館市日本語教室」での日本語指導、「日本語サロン」のボランティア、そして海外にルーツを持つ児童生徒の日本語学習支援や日本語個人レッスン等、さまざまな活動を行っている。そんなJTSが、「あつまれ、地球人！〜きいて、はなして、つながろう〜」と題して、日本語スピーチコンテストを開催。函館市や近郊に暮らす外国人による日本語のスピーチ発表会や交流会も行う。

【日時】10/8(日) 13:00-16:00
【プログラム】 第1部 / スピーチ発表会
第2部 / 絵本読み聞かせ 第3部 / 交流会
【申込方法】9/30(土)までに、代表者氏名・人数・メールアドレスを記載し下記まで。
masu.nihongo@outlook.jp

ナルク函館はまなす 多世代で描く地域の未来

ナルク函館(はまなす)は、1998年に道内で4番目に誕生した全世代型のボランティア団体だ。9月に創立25周年を迎えることを記念し、「〜夢ある未来を創ろう〜多世代で描く地域の未来」と題するイベントを開催。当日はメイン会場の函館市民会館小ホールと、「[わらじ荘]「函館でこらや」[みんなのたまり場「いぐべ!」]」の3カ所をzoomで結び、多元中継フォーラムを行い、YouTubeで同時に配信、チャットでの意見交換もする。
【日時】9/23(土) 13:00-16:30
【会場】函館市民会館小ホール(メイン会場)
【参加予定】地域住民の方など150名(要予約)
【入場料】無料
【主催・問い合わせ】ナルク函館はまなす
函館市千代台町12-19 0138-31-2048
nalchakodate@mx3.tiki.nie.jp

ウイメンズサポート函館、9・10月の「女性のための講演会」

HIFが運営するウイメンズサポート函館(P4参照)、函館コミュニティプラザGスクエアにて開催する「女性のための講演会」。8月から1月は女性の問題について活動するさまざまなジャンルのゲストを迎えての講演会、最終回の2月は映画の上映会を開催します。どの回も入場無料、同時に個別相談ブースも設けます。入場希望の方は事前にご予約ください。

9月16日(土) 13:00-14:30

15歳から24歳の女の子に寄り添う ~「わたカフェ」の取組み~

福田 愛

国際 NGO プラン・インターナショナル
国内支援事業グループリーダー

PROFILE

●東京都出身。2012年から、更生保護施設で、少年院や刑務所を仮退院・仮出所した女性の自立支援に携わり、その後、虐待や養育困難な家庭へ介入、家庭の暴力から逃げる若年女性の支援などにかかわる。2020年から、公益財団法人プラン・インターナショナルに入局し、新事業である「女の子の居場所カフェ・わたカフェ」と「女の子のためのチャット相談」を開設し、運営に至っている。社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ。



10月14日(土) 13:00-14:30

あなたを守るための、優しい法律相談

車 福順 (ちゃ・ぼくすん)

山崎法律事務所 弁護士

PROFILE

●東京生まれ(在日韓国人)。経済学部に進むも、大学4年生のときに弁護士を目指す。司法試験合格後、初めて東京を離れ、函館で修習。弁護士になり、札幌で働いた後、2012年から函館に移住し弁護士を続ける。民事事件、刑事事件の他、DVが絡む離婚事件や函館道南SARTを含む犯罪被害者支援活動にも取り組む。



【場所】函館コミュニティプラザGスクエア
函館市本町24-1 シェスタハコダテ4階

入場無料
※来場希望の方は事前に(一財)北海道国際交流センター(HIF)まで、ご予約ください。
※各会開催日には、専門のカウンセラーが個別相談も受け付けます。
14:30-17:00
※その他詳細は、ウェブサイトやSNS等でお知らせします。



参加希望者は、メールまたは電話にて事前の予約が必要。

BLOCK(ブロック)主催の ハロウィンパーティ

2017年にスタートした一般社団法人 国際交流団体ブロック(BLOCK)は、長い海外生活の経験を持つスタッフが中心となり、語学サポートを通じた地域貢献を目的として活動している団体だ。子ども向けの英会話(ESS<English Sunday School>)にも力を入れており、「子どもたちが、生活や遊びの中で日本語を身につけるように、他の言語も同じように習得していくこと」を目指し、さまざまな取り組みも行っている。そして恒例となったHALLOWEEN PARTY(ハロウィンパーティ)を今年も開催。子どもも大人も楽しめるイベントだ。

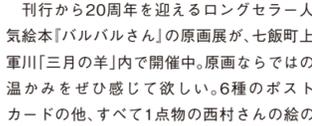


おぼせいの子どもたちが訪れ、賑わった昨年の会場。

【日時】10/15(日) 第1部13:00-15:00、第2部16:00-18:00 ※要予約、定員各200名。
【入場料】子ども~大人 / 1名 500円(税込)
【内容】ハンターから逃げろ! / カボチャランタンづくりセット / 不思議体験 パブルトンネル / ショータム / 巨大蜘蛛の巣 / その他アトラクション
【場所】大中山地域体育館
亀田郡七飯町中島144-1
※カボチャランタンは別途1,000円が必要。
※内容の詳細、予約情報なども含め、最新の情報はBLOCKウェブサイトをチェック。
<https://blocknaae.com/block/event-schedule/>

西村敏雄 『バルバルさん』原画展

刊行から20周年を迎えるロングセラー人気絵本『バルバルさん』の原画展が、七飯町上軍川「三月の羊」内で開催中。原画ならではの温かみをぜひ感じて欲しい。6種のポストカードの他、すべて1点物の西村さんの絵の販売もしている。絵の購入に興味がある方で、営業時間内の来店が難しい方は三月の羊オンラインショップでも購入が可能。
【日時】~10/1(日) 10:00-16:00
※9/30は12:00-17:00(月・火・水定休)
【会場】三月の羊
七飯町上軍川9-11 0138-67-2077



植物を育て、糸を紡ぎ、手で織り、衣を縫製している真木テキスタイル。素材あききで作る丁寧な手の仕事から生まれる衣服たちは、着るほどに愛着がわくと全国に多くのファン



大沼国際セミナーハウス オータムコンサート

(一財)北海道大沼国際交流協会と(一社)よこすかの音楽家を支援する会が協力して行

われるコンサートシリーズ『よこすかの音風』。毎年、神奈川県横須賀市から演奏家が大沼を訪れ、演奏会を開催している。今回は「月夜のピアノ 太陽の歌」と題して、2日間わたって開催される。
【日時】9/23(土)17:00開場 17:30開演 9/24(日)13:30開場 14:00開演
【出演】高梨壮一郎(ピアノ/両日)、増田美穂(ピアノ/両日)、宮本史利(バリトン/24日のみ)
【料金】前売り券(全席自由 / 当日券は500円増) 一般 / 23日2,000円 24日2,500円
ペア / 23日3,500円 24日4,000円
賛助会員 / 23日1,000円 24日1,500円
高校生以下 / 23日1,000円 24日1,000円
※両日購入は合計から500円引き。
【直接販売・電話予約】
北海道大沼国際セミナーハウス
七飯町字大沼町127-1 0138-67-3950



23日演奏曲目 / 月の光 / ドビュッシー、月光ソナタ / ヘンツェ / ヴェーグナー、他
24日演奏曲目 / オソルネ / ミオ / ティ・カファ、千の窟になつて / 新井 逸他

真木テキスタイル 秋の衣服展

植物を育て、糸を紡ぎ、手で織り、衣を縫製している真木テキスタイル。素材あききで作る丁寧な手の仕事から生まれる衣服たちは、着るほどに愛着がわくと全国に多くのファン



みんなが創る手作りの本の展覧会 [第18回 世界に一冊だけの本・展]

2004年にスタートし、今回で18回目となる世界に一冊だけの本・展。作者が手作りの本を集めたユニークな展覧会だ。絵本、写真集、小説、エッセイ集等など、ジャンルは問わず、素材も自由。ただし、必ず自分で綴じたもので、市販のノートやクリアファイルなどの使用は不可、だといふ。これまでの出品作はさまざま。紙や布、中には木材や金属を使い、綴じ方も簡単にテープやホチキスを使ったものから、針金や糸で綴じたもの、中には本格的な製本方法を用いて、市販のものとなら遜色のない作品まである。会場では1点1点手に取ってゆっくりと見ることもできる。2017年の第12回からは会場も、それまでの函館市地域交流まちづくりセンターに、函館コミュニティプラザGスクエアでの展示が加わり、2会場での開催となっている。ただ、作品は子どもも大人も分け隔てなく五十音順に並べるといふ展示方法や、作品を審査して優秀を

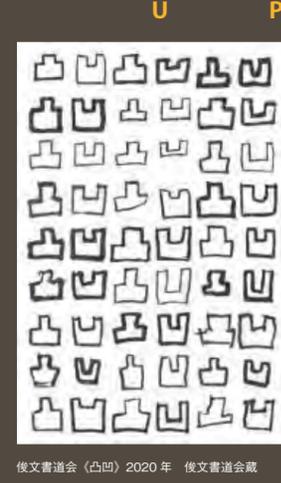
けるといったことはしない、という運営方針は、スタート時から変わっていない。
【函館コミュニティプラザGスクエア会場】
【日時】10/26(木)~11/1(水) 10:00-19:00
※初日は13:00より。最終日は14:00まで。
【函館市地域交流まちづくりセンター会場】
【日時】11/2(木)~11/7(火) 10:00-19:00
※最終日は14:00まで。
【交流会】11/7(火)(最終日) 14:00より。
※出品者に限らず、どなたでも参加可能。
【作品募集】10/7(土)~15(日)、Gスクエアまで。
※出品方法などの詳細は公式サイトを。
※作品、その他のお問い合わせは公式サイトよりメール、または0138-22-6167(SUQ+)まで。
<https://handmadebook.wixsite.com/book>
主催 / 世界に一冊だけの本・展 実行委員会



手づくりの本を作ってみようという方のためのワークショップが開かれる。当日は、簡単な綴じ方のノートを作る。「ちょっとしたコツできれいな本が作れます」と講師のもぎちさとさん。基本的な綴じ方さえわかれば、あとはアイデア次第で、自分だけのオリジナル本が作れるという。興味のある方はぜひご参加。
【日時】A・9/17(日) 13:00-14:00 B・11/1(水) 16:00-18:00
【定員】A・10名 B・8名(高校生以上)
【参加費】A・Bともに500円
※道具や材料などは不要。
【場所】Gスクエア
【予約・お問合せ】
0138-35-4000 info@g-sq.jp

北海道立函館美術館 [ことばと絵 くりかえしのアート]

特定のモチーフや言葉を繰り返し描いたり、書いたりすることで創造されるアートの世界。「くりかえし」をテーマにしたこの展覧会は、「イメージのくりかえし」「好きな気持ちのくりかえし」「学びのくりかえし」「技法のくりかえし」「時間とくりかえし」の5つのコーナーから構成され、書や絵画、工芸、彫刻など函館美術館の所蔵作品のほか、道南・青森地方の障がい者のアートをあわせ、約100作品を展示している。くりかえすということで見られる表現の魅力を、さまざまな視点から楽しむことができる。
【日時】~9/24(日)
9:30~17:00 (入場は16:30まで)
【場所】北海道立函館美術館 函館市五稜郭町37-6
【入場料】一般 / 920円 高大生 / 610円
小中生 / 300円
※入場料の割引など、詳細は美術館ポータルサイトを。
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/hbj/>



EDITORS' NOTES

●2015年に初めて会ったフリーペーパー「茨女」編集長の川井真裕美さん。茨城の魅力的な女性を紹介したいと自ら取材もデザインもして発行していた。今号のCLIPから、女性に関わるページが見開きでスタートしたが、「函女」にも光を当ててゆきたいものだ。(池田)
●夏の留学生プログラム(JJ)が無事終了しました。「せっかく函館にいらんだから」という留学生の食欲さ、行動力、エネルギーに圧倒された2か月でした。私も彼らを見習うべく、「今」を大切に、まずは体力をつけたいと思います。(櫻坂)
●私の家にはエアコンがないので、「どうにかしてひんやりする方法」ばかり考えた夏でした。いろいろあるひんやりグッズを試し、どんどん薄着になり、アイスをとたくさん食べる...そうしているうちに汗だくになるのでソファと扇風機を陣取り、辛うじてできた1人分の涼しいスペースで過ごす。ひんやり方法はシンプルです。今年の夏は涼しい7割はひんやりスペース。季節はあつという間に秋です。〇の秋楽しみたいです。(吉田)
●観光写真だと「砂浜にピラミッドがとん!」ですが、本当はいきなり出現するわけもなく、近づくにつれて大きくなっていき、あの姿なわけですね。自分の目で見ると大事にしたいなと思います。(松田)
●言わずと知れた「好立地」のHIF事務所まで徒歩通勤をしている。選抜技はそれほど多くないが、いくつかの組み合わせの返り降りを楽しんでいる。目の暮藤(?)は、夏まで過ごすつもりで、近くなり、帰路つい足早になってしまふこと……。 (谷川)
●ブタクサアレルギーだと思ってる。夏を勢いで乗り切った反動でこの時期風邪を引くものとは思いがていました。ところで「ブタクサ」と口にするとだけで笑われます。信じてもらえせん。(福田)
●7月に参加した植物染めワークショップが本当に楽しかった。娘のために可愛らしい草花を散りばめたTシャツを作って大満足。久しぶりでこんなに楽しめる時間を堪能しました!次は親子で参加しようかな。(吉村)
●漂着ゴミのページはなんとなくやってみたのですが、とても興味深かったの、もう少しちゃんと調べてみたいと思います。(中村)



一昨年の展示会後、またやってほしいという声が多かった。 使いた手の良さそうな落ち着いた色使いのバッグたち。これはすべてクラフトテープを編み込んで作られている。クラフトテープとは、クラフト紙に粘着剤を塗布したテープのこと。この作品は、新潟県魚沼市在住の猪狩豊子さんの手によるもので、一昨年、宝来町にある手作り衣類・アクセサリーの店SUQ+(スークプラス)で展示会を行った時の様子だ。コロナ禍の影響もあり昨年中止となったが、この秋、また展示会を開催するという。新潟県魚沼市はSUQ+店主・佐藤藤子さんの故郷でもあり、縁あって猪狩さんとの交流が始まったのが4年前。3回目の展示会となる今回は、バッグだけでなく、小物入れなどの小さな作品も多数揃えるという。「前の作品よりもカラフルで華やかな色のものも用意しました」と猪狩豊子さん。
【日時】10/21(土)~11/7(土)
土日火曜 13:00-18:00
【場所】SUQ+(スーク・プラス)
函館市宝来町27-13 0138-22-6167

編集部からのお願い
●本誌では、イベントやボランティアに関する情報、また広告を掲載してくださる企業、そして設置場所を募集しております。広告は基本的に編集部で制作いたします。設置についてはサイズも大きいので敬遠されそうでもありますが、どうかよろしくお願ひします。

CLIPのInstagram 始めました。
設置場所
函館市役所1階市民ホール / 函館市各支所 / 函館市 亀田交流プラザ / 函館市芸術ホール / 函館市地域交流まちづくりセンター / 函館市女性センター / 函館市青年センター / 函館コミュニティプラザGスクエア / 函館市中央図書館 他図書館 / 函館市公民館 / 函館市総合保健センター 函館市総合福祉センター / 七飯町文化センター / 北斗市総合文化センターかなで〜 北海道教育大学函館校 / 函館 篤屋書店(石川町) / 金森赤レンガ倉庫(末広町) / 北海道国際交流センター(元町) / 函館YWCA / cafe D'ici(元町) / 金子銀鏡店(元町) / はこだて工芸舎(末広町) / cafe tutu(末広町) / cafe & deli MARUSEN(大手町) / Classic(谷地頭町) / 夏井珈琲ブリュッケー(五稜郭町) / Pain'ne(宝来町) / こなひき小屋(七飯町) / 大沼国際交流プラザ(七飯町) / 国際交流団体ブロック(七飯町) / LEAVES(北斗市) / 木彫り熊と本店kodamado(八雲町)

2023年9・10月号(隔月発行)
2023年9月1日発行
発行人 / 池田 誠
編集人 / 中村ひでのり
CLIP HAKODATE 編集室
櫻坂麻理子、松田夏海、吉田 楓、谷川真弓子、近藤愛子、福田琢磨、吉村美悠
デザイン / 中村事務所
禁・無断転載

次号は11月1日発行です。
HIF HOKKAIDO INTERNATIONAL FOUNDATION
(一財)北海道国際交流センター(HIF)
040-0054 函館市元町14-1
TEL. 0138-22-0770 FAX. 0138-22-0660
E-mail: event@hif.or.jp
<https://www.hif.or.jp>

2023年9・10月号(隔月発行)
2023年9月1日発行
発行人 / 池田 誠
編集人 / 中村ひでのり
CLIP HAKODATE 編集室
櫻坂麻理子、松田夏海、吉田 楓、谷川真弓子、近藤愛子、福田琢磨、吉村美悠
デザイン / 中村事務所
禁・無断転載